

# 順天堂医院ニュース 2013 NO.44

## 「遺伝相談外来」について

多くの疾患は遺伝的要因と環境的要因によって発症することが知られています。順天堂医院では、平成 24 年 10 月から「遺伝相談外来」を開設し以下のような疑問や心配に対応しています。



1. 自分や子どもの先天性な疾患について相談にのって欲しい。
2. 遺伝性疾患や染色体の異常について検査方法も含めて知りたい。
3. 私や私の親戚の病気は、私の子どもに遺伝する？
4. 病気が遺伝するかどうか調べる方法は？
5. 出生前診断や着床前診断について詳しい情報が知りたい。
6. うちのがん家系だが、私や他の家族もがんになりやすい？
7. 自分や家族の遺伝性疾患の話を他の家族にどう伝えたらよい？
8. 遺伝子の研究はどこまで進んでいるかが知りたい。

上記のような遺伝に関する相談に対しては、しっかりとした知識を持った専門家が十分に時間を費やして対応することが大切です。このために開設されたのがこの「遺伝相談外来」です。毎月第2、第4月曜日の午後2時から5時まで、完全予約制で3号館2階の予約診察室（内線 5327）で臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーが対応しています。

是非本外来を利用してください。

小児科・思春期科 教授 清水 俊明  
臨床遺伝専門医 恒松由記子  
認定遺伝カウンセラー 田村智英子



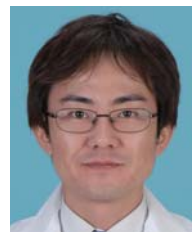
## 肝がんのラジオ波治療

消化器内科 椎名秀一郎

ラジオ波治療は皮膚を2～3ミリ切り、超音波で観察しながら、がん径1.5ミリの電極針を挿入し、熱でがんを死滅させる治療です。100度に熱せられて生き残るがんはありません。がん全体を焼き切れば根治となります。一般的適応はがんが3センチ以内、3個以下ですが、その条件を超えていても、患者さんが治療を強く望み、全身状態などが良ければ、治療ができることもあります。全身麻酔や開腹手術が不要なため肝硬変患者や高齢者でも可能です。また、大腸がんや胃がんの肝転移も適応となります。転移性肝がんでも10年以上生存している方が何名も存在し、2000年3月にラジオ波を実施した直腸がん肝転移の女性は現在96歳です。前任地の東大病院では約8500例とおそらく世界でも最多の症例にラジオ波を実施してきました。当院では最新の機器をそろえ、痛み対策にも配慮してラジオ波を実施しています。技術と経験をもとに最高の医療を提供していきたいと思えます。



教授  
椎名 秀一郎



助教  
佐藤 隆久



ラジオ波治療前のCT。赤丸で囲まれた白い部分が肝がんである。



ラジオ波治療後のCT。がん全体が完全に焼灼されていることがわかる。

## ロボット手術について

泌尿器科 堀江 重郎

正確な手術をすること（余計なものを傷つけないこと）と、からだの負担を減らすこと。この外科医の願いをかなえたものが、手術ロボット（ダヴィンチ）です。ロボットというと、ぎこちなく歩く産業ロボットを想像しますが、ロボットが自動で手術するわけではありません。外科医の細かい指の動きを、からだの内部で再現するための道具です。何倍にも拡大した視野で手術を行いますので、正確に患部を取り除いたり、臓器同士を縫いつなげることができます。また、おなかを大きく切らずに、最小限の器具のみからだに入りますので、外部から細菌が入るリスクも少ない、きわめて清潔な手術です。

このたびダヴィンチの最新機種が当院に導入されました。ロボット手術は安全性と信頼性が高いため、現在アメリカでは、前立腺がんの手術の90%がダヴィンチで行われています。この手術は保険が適用されます。ぜひ主治医にご相談ください。



教授  
堀江 重郎



ダヴィンチ Si

## 紹介状をお持ちの患者さんへ

「初診事前予約受付センター」開始いたします。

(平成 25 年 6 月 1 日より「総合診療科」「膠原病・リウマチ内科」で対応)

紹介状をお持ちの患者さんが初診手続きでの待ち時間を短縮するために、ファックス又はE-mail でいただいた情報をもとに、受診日の予約を受け、事前にカルテ作成等、受診当日の事務的手続きを簡素化するようにいたします。

<お手続き方法>

- ①・「初診事前予約申込書」に必要事項を記載してください。
  - ・午前9時から午後4時までの間にファックス又はE-mail で医療連携室へ送信してください。
  - ・「初診事前予約申込書」は1号館1階医療連携室にてご用意しております。
  - ・順天堂医院ホームページより同申込書を印刷することも可能です。
- ②受診日決定後「初診事前予約票」をご返送いたします。
- ③受診当日に「初診事前予約票」を初診受付にご提示ください。

☆なお、現時点では診察時間の予約は出来ませんので予めご了承ください。

### 【お問い合わせ】

初診事前予約受付センター（医療連携室内）  
受付時間：午前9：00～午後4：00まで  
受付曜日：月曜日～金曜日まで（祝日除く）  
TEL 03-5802-1576（直通）  
03-5802-1941（直通）  
FAX 0120-03-3946・03-5802-3946  
E-mail irenkei@juntendo.ac.jp

## 感染対策室からのお知らせ

### 風しん流行のお知らせ

現在、約9年ぶりに風しんが大流行しています。特に、首都圏での発生が多く、ワクチン接種が行われていない世代(20～40歳代)の成人男性に多く発生しています。症状は、発熱・発疹(顔→体幹→全身)・リンパ節腫脹などで、「三日はしか」とも呼ばれています。感染経路は咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛沫感染です。ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染もあります。



免疫のない妊婦が妊娠8週目までに罹患すると、胎児に白内障、心疾患、難聴の障害(先天性風しん症候群)が起こる可能性があります。

最大の予防法は、国民のほぼ全員(目標は95%以上)が風しんの免疫を持つことです。ワクチン接種することで免疫を獲得することができます。当院では、従来から風しんや麻疹といった流行性ウイルス性疾患の免疫を持たないすべての職員に対し、ワクチン接種を積極的に行い、2012年に対応を完了しています(現在95%以上の職員が免疫を持っています)。

感染対策室 室長 堀 賢  
感染管理認定看護師 田中 恵美

## 栄養部ニュース

### ～特定保健用食品～



このマークを目にしたことはありませんか？

このマークがついている食品が特定保健用食品（通称：トクホ）です。トクホは、消費者庁長官の許可を受けた、体の生理学的機能などに影響を与える成分を含んでいて、特定の保健の効果が科学的に証明されている食品をいいます。

現在、約 1000 品目が表示の許可を受けています。

トクホは医薬品ではなく食品です。

トクホには「食生活は、主食・主菜・副菜を基本に、食事のバランスを。」という表示が義務付けられているように、まずは日常の食生活を見直すことが大切です。

利用する際には、食生活の改善のきっかけとして、自分には「どの保健の効果が必要なのか？」を考えてから、取り入れるようにするとよいでしょう。



管理栄養士：牧田寿美子

## 臨床検査部ニュース

### 脳波検査について

脳波検査は、脳の活動により生じるわずかな電気を記録する検査です。安静時や睡眠時、また光や深呼吸などの刺激を行い、てんかんなどの病気の有無や脳の機能低下などについて調べます。脳波は非常に微弱な電気のため、電気が通りやすいようにあらかじめ頭皮をよく拭き、電気を通しやすいペーストと呼ばれるもので電極を固定します。安静にできないお子様の場合はお薬を飲んでいただき、眠ってから検査することもあります。難治性のてんかんでは数日、ビデオと同時に記録する長期脳波ビデオ同時記録検査も行っています。脳波検査は、患者さん自身の電気を記録するもので、機器から電気が流れてくることはなく、安心して受けられる検査です。

（詳しくは、本病院の臨床検査部ホームページに掲載してありますのでご参照ください。）

本病院の臨床検査部ホームページ

[http://www.juntendo.ac.jp/hospital/support/rinsyo\\_kensabu/index.html](http://www.juntendo.ac.jp/hospital/support/rinsyo_kensabu/index.html)

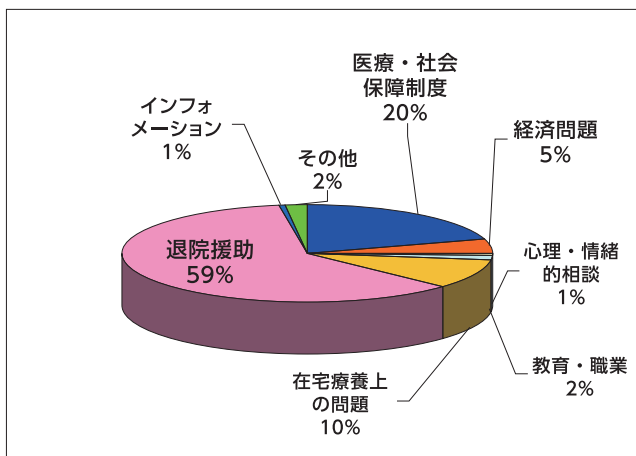




## 医療福祉相談室ニュース

☆平成 24 年度に当室で受けた相談内容の割合は、次のとおりです。

《平成 24 年度 相談内容別件数（総数 883 件）》



当院には幾つかの相談部門がありますが、医療福祉相談室では、「社会福祉制度やサービスの内容と活用方法を知りたい」「退院後の療養生活（自宅での療養や転院、福祉施設など）について相談したい」といったご相談をお受けしています。

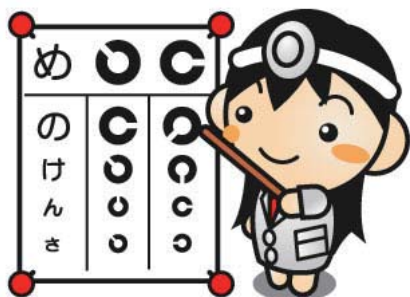
昨年度、当室で新しく受けた相談件数は 883 件でしたが、一番多い相談内容は、**退院に関する援助**で、当院での入院治療を終えられた患者さんの療養先（リハビリテーション専門病院や介護療養型病院など）についてのご相談が過半数を占めました。次いで多かったのは、**医療・社会保障制度**で、公的な医療費助成制度の案内や介護保険や障害者手帳といった福祉制度の利用についてのご相談でした。

当室では5名のソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）が、療養生活に伴って生じるさまざまな心配事について、患者さんやご家族の方と一緒に考えながら解決へのお手伝いをしています。ご相談をご希望の場合にはお手数ですが、**事前にお電話でご予約（03-5802-1207）**いただければ幸いです。

## 薬剤部ニュース

### 白内障とはどんな病気??

年をとるにつれて視野がかすんだり、まぶしかったり、屈折の変化等により見えづらくなる症状が出てくる場合があります。これが白内障の症状です。60歳以上で70%、80歳以上になるとほぼ100%の人に白内障の症状が見られます。



白内障とは、目のレンズの役割を果たしている水晶体が傷つき、白く濁ってしまうことを言います。治療としては、濁った水晶体を透明な状態に戻す手術が一般的です。手術前には感染予防のために抗生剤の点眼薬が開始され、手術後からはそれに加えて炎症を抑える点眼薬が開始されます。点眼薬は、ある程度の期間継続して点眼してもらいますが、徐々に回数や点眼薬も変わっていきます。

また、手術以外の目薬療法として、ピノレキシン製剤やグルタチオン製剤があり、水晶体の濁りの予防と進行を遅らせる効果があると言われています。

白内障は、ビタミンCの摂取やサングラスで眼に入る紫外線をカットするなど、日々の生活に気を付けることで、進行を遅らせ視力低下や失明になる確率を減らすことが出来る病気です。

## 看護部ニュース

### 積田 由紀子様「まほうのランプ前代表」を悼んで

順天堂医院小児病棟では毎週土曜日 10時から「まほうのランプ」の方々が入院中の子どもたちを対象に「あそび」のボランティア活動をしています。

代表をつとめた積田様をご自身の闘病体験から入院中の子どもたちに「笑顔の楽しい」時間を過ごしてほしいと願われ1998年より立ち上げた活動です。「あそび」だけではなく「学習」という面での関わりも大切にしてこられ、入院中の子どもたちやご家族の、笑顔と笑い声を広げていただきました。

積田様はボランティア活動を自らライフワークと呼び、入院中の子どもたちにおしみない愛情を注いでくださいました。私たち看護師には貴重な闘病体験も講演してくださいました。残念ながら、今年3月に61歳という若さで旅立たれました。長年にわたるボランティア活動に感謝するとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

なお、積田様の遺志を継いだ活動は現在も継続されています。皆様のご支援よろしく願いいたします。詳細は3月29日読売新聞掲載(夕刊)の記事をご覧ください。

看護安全管理課 伊藤千春



積田 由紀子様 (写真中央)

## 順天堂医院の今昔

### 『順天堂醫事雑誌』

順天堂大学の機関誌『順天堂医学』は2013年の59巻第1号からタイトルを『順天堂醫事雑誌』と改めることになった。

『順天堂醫事雑誌』は明治8年(1875)に第1号が発刊されている。明治8年はベルリン大学医学部に留学していた第三代堂主佐藤進がウィーン、パリを回って帰国した年である。進はアジア人最初のベルリン大学医学部の卒業生であった。

進は帰国するや、ただちに診療、塾生の教育にたずさわり、忙しい日々が続いた。当時、順天堂には、全国から集まった医師を志す塾生が寄宿し医学を学んでいた。進が講義する最新医学は、どれも塾生にとって耳新しいことばかりで、みな懸命に講義を筆記していた。それを見ていた当時の院長である第二代堂主佐藤尚中は「その論ずるところの医法を施す所の技術とは我耳目に新たにして後生のために裨益なしとすべからず。それ(筆記したもの)を捨て置かんとは遺憾のこととし、筆記して冊子となしぬるを順天堂醫事雑誌と題して木の上せぬ(木版にのせる=刊行するの意)」と、明治8年(1875)に『順天堂醫事雑誌』の刊行を始めた。その後、進は西南戦争(明治10年)で軍医として活躍し、その名は全国に知れ渡ったのであった。



順天堂大学医学部医史学研究室  
特任教授 酒井シヅ

順天堂大学医学部附属順天堂医院  
〒113-8431 文京区本郷3-1-3  
TEL : 03-3813-3111(代表)

編集 病院広報委員会  
発行 医療連携室(平成25年7月発行)

ホームページ

<http://www.juntendo.ac.jp/hospital/>

順天堂医院

検索

